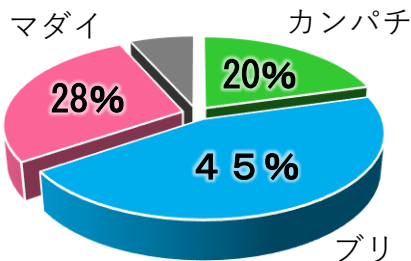


1. 現状と課題

①宮崎県の養殖状況

【尾数割合】



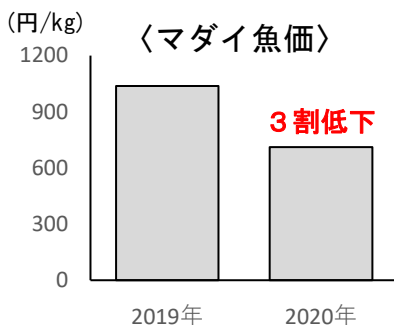
国内の養殖種別人工種苗割合

マダイ	100%
カンパチ	7%
ブリ	10%

②コロナ禍での影響

外食需要の減少

滞留魚の増加
価格の低下

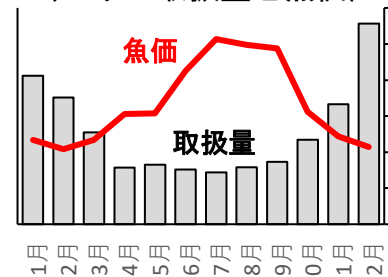


③養殖魚の特徴

種苗供給期間が限定的

出荷の最盛期
魚価安

〈ブリの取扱量と魚価〉



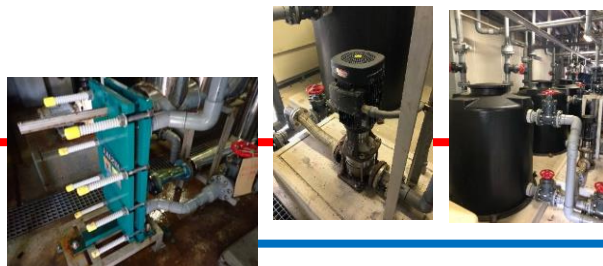
2. 事業の内容

【早期人工種苗生産体制強化事業】

早期人工種苗生産のため飼育水の**冷却システム**を増強（2基⇒4基）し、生産体制の強化を図る。

※冷却システム：夏期にブリの産卵期である冬の環境を水槽内に造るシステム

既存水槽

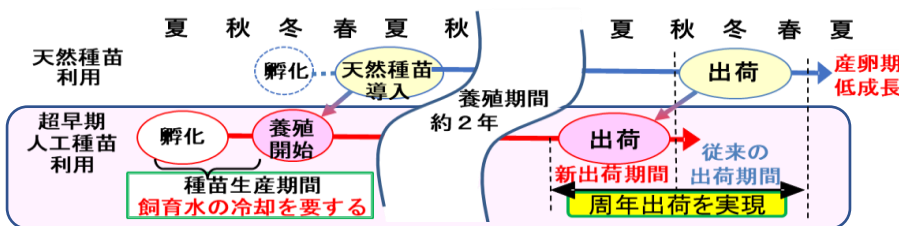


取水



冷却システム

〈参考〉養殖魚の計画的な生産を支える早期人工種苗（ブリの場合）



○出荷時期の分散

- コロナ等による需要減退時の滞留リスクを解消
- マーケットニーズに対応した出荷形態により、内食需要に対応

3. 見込まれる成果

コロナ禍でも強い養殖業の構築、アフターコロナにおける養殖業の成長産業化の推進